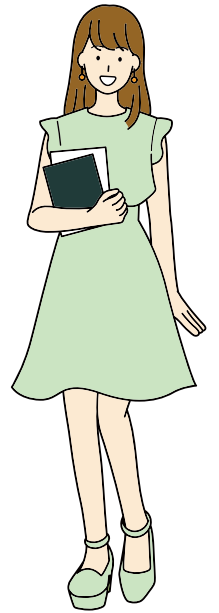
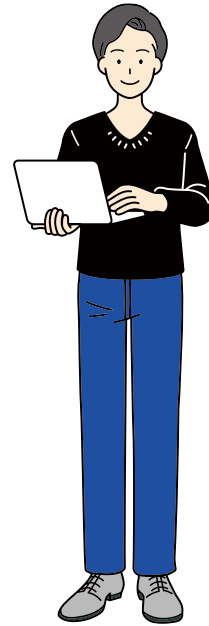
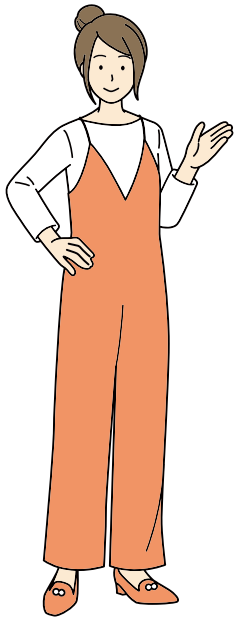
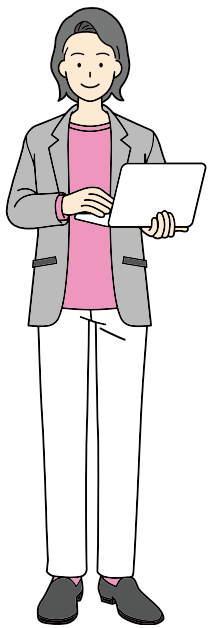
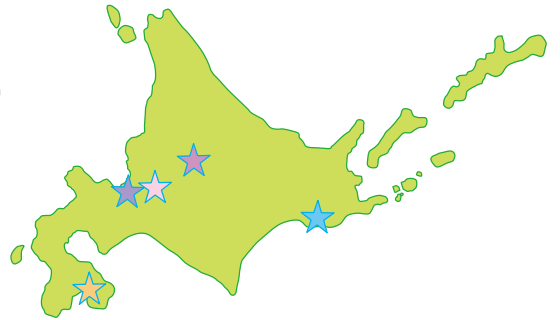


# 基金だより

第16号



## FUND REPORT



## Vol.16

## はじめに



北海道教育大学長  
田 口 哲

皆様におかれましては、益々で健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するため、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓生、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を応援してくださる様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ750名を超える学生に奨学金を授与してまいりました。また、経済的な理由により修学が困難な学生を支援する『修学支援事業』、みなさまからの共感によりキャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）を実現する『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設・実施するなど、大変有意義に基金事業を展開することができました。

皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代社会に目を向けると、グローバル化などの進展に加え、Society5.0の実現に向け社会構造の変化がますます加速する中、予測困難な時代を生きる子どもたちの教育に求められる内容も時々刻々と変化しています。本学では、教員を「教育に関する高度な専門職業人」と捉え、教育に関する専門的知識に裏打ちされた実践力や自ら問題の発見・解決に取り組む基本的な臨床的研究能力、そして教育的愛情と使命感を基礎として学び続ける力を持った人材を養成しています。これにより「質の高い教育をみんなに」というSDGsの目標4の達成に寄与しています。

また、地域社会では、少子高齢化や人生100年時代の到来、地方創生の実現に向けた諸課題が山積する中、持続可能で活力ある社会を目指した変革が求められています。本学の「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで健康な生活を提案できる人材を養成しています。これはSDGsの「住み続けられるまちづくりを」（目標11）、「すべての人に健康と福祉を」（目標3）という目標達成に寄与することにつながります。

本学は、次世代を担う人材養成のため、充実した教育体制や教育を支える環境整備はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取組の奨励、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるための支援を行うなど、今後も基金事業を充実・継続し、「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」の実現に努めてまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 目 次

1. 令和4年度事業報告	2	5. 寄附者のご紹介	8
2. 基金の収支状況	2	企業、法人、団体等	8
3. 育英事業奨学金受給者から	3	個人	9
学部学生	3	6. 大学の近況報告	10
大学院生	6	7. お知らせ	13
4. 奨学金授与者数	7		

## 1

## 令和4年度事業報告

■令和4年度事業として以下のとおり実施しました。

## 育英事業

- ①優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金給付  
5名に対し、1人10万円 計50万円を給付
- ②優秀な学部学生への奨学金給付  
15名に対し、1人10万円 計150万円を給付
- 合計 20名 200万円を給付

## 修学支援事業

- ①経済的理由により修学困難な学生に対する奨学金給付  
24名に対し、1人10万円 計240万円を給付
- ②学生の海外留学支援のための奨学金給付  
5名に対し、1人10万円 計50万円を給付

## 表彰事業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰  
学業成績優秀者16名、その他の表彰 個人3名、団体1組（表彰状及び記念品を贈呈）

## キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

「キャンパス活性化リノベーション事業」による修学環境の整備、岩見沢校サッカー一部の活動支援のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生活動支援等に要した経費を支出

## 2

## 基金の収支状況

■令和4年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
前年度からの繰入	69,161,782		
修学支援事業	2,631,800	修学支援事業	2,889,000
その他の事業	38,374,863	その他の事業	37,277,892
育英事業等	363,461	育英事業等	2,279,620
研究プロジェクト・公開講座等支援事業	5,244	研究プロジェクト・公開講座等支援事業	0
キャンパス指定事業	22,241,523	キャンパス指定事業	18,651,020
附属学校（園）支援事業	15,764,635	附属学校（園）支援事業	16,347,252
		管理費（リーフレット、手数料等）	733,976
合 計	110,168,445	合 計	40,900,868
		差引収支額	69,267,577

■平成18年12月の基金創設時から、令和5年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
修学支援事業	53,451,416	修学支援事業	32,682,587
その他の事業	326,884,360	その他の事業	273,637,008
育英事業等	97,759,097	育英事業等	94,326,221
研究プロジェクト・公開講座等支援事業	5,244	研究プロジェクト・公開講座等支援事業	0
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	175,618,057	キャンパス指定事業	141,769,077
附属学校（園）支援事業	53,501,962	附属学校（園）支援事業	37,235,522
		管理費（リーフレット、手数料等）	4,748,604
合 計	380,335,776	合 計	311,068,199
		寄附金残額	69,267,577

## 学部学生

## ◆ 札幌校 教員養成課程 生活創造教育専攻 2年 桑原 帆香

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心から感謝申し上げます。

このような形で自身の努力を評価していただき、大変光栄に思います。

私が1年次の時には新型コロナウイルスの影響で、学校行事は一切ありませんでした。また、授業はほとんど非対面だったため大学に行く機会が少なく、不安に感じていました。現在は、部活動も十分に行うことができ、対面授業も増えたため充実した大学生活を送っています。今後とも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、より一層勉学に精進してまいります。

最後になりますが、ご支援いただいた皆様、この度は誠にありがとうございました。



## ◆ 札幌校 教員養成課程 理数教育専攻 3年 佐藤 百合奈

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与して頂き、誠にありがとうございます。この制度を存じておりませんでしたので、このような形で学業の成果を評価していただけたことに、驚くとともに、大変嬉しく光栄に思います。この機会を通して、多くの方々のご支援のおかげで日々学業に取り組むことができているということを改めて実感し、ご支援頂いた方々への感謝の気持ちを忘れずに、これまで以上に勉学や様々な活動に励んでいきたいと考えております。

重ねて、この度の授与に御礼申し上げます。

## ◆ 札幌校 教員養成課程 言語社会教育専攻 4年 池亀 さや

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。学業の成果をこのような形で評価していただいたことを大変嬉しく思います。

入学してから約4年の間にコロナ禍を経験し、新しいスタイルの学びに慣れないことも多くありましたが、色々な方に支えられながら、勉学に励むことができました。

今後ともご支援していただいた方への感謝を忘れず、日々努力し続け、さらなる自己練磨を積んでいきたいと思っております。

重ねて、この度の授与に御礼申し上げます。



## ◆ 旭川校 教員養成課程 教育発達専攻 2年 小川 勘太郎

この度は、北海道教育大学育英基金事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思うと共に身が引き締まる思いです。

コロナ禍という難しい状況であっても私の大学生活を支えてくださっている全ての方々に感謝する気持ちを忘れず、これからもよりよい教師を目指し自己研鑽に励んでいきます。最後に、ご支援いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

## ◆ 旭川校 教員養成課程 英語教育専攻 3年 柳澤 克樹

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与して頂き、誠にありがとうございます。このような形で自分の努力を評価して頂き、大変嬉しく光栄に思います。

私は将来中学校の英語の先生を目指して勉学に励んでおりますが、英語を使う楽しさや魅力が伝えられる教師を目指していきます。そして、これからの日本の英語教育に貢献できるよう、より一層精進してまいります。

ご支援くださった方々への感謝を忘れずに、今後の学びを充実させていきます。この度は本当にありがとうございました。





◆ 旭川校 教員養成課程 生活・技術教育専攻 4年 河田 凜

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力や成果をこのような形で評価していただき、大変嬉しく、また光栄に思います。授与していただいた奨学金は、これから出会う子どもたちの学びを育むための教材や研究の費用として、大切に使用させていただきます。今後も更なる自己研鑽に励むとともに、温かいご支援を下された皆様に重ねて御礼申し上げます。

◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育実践専攻 2年 谷 心呂

この度は、北海道教育大学基金より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で自身の努力を評価していただけたことを大変嬉しく、光栄に思います。私は、現在入学当初からの目的であるインクルーシブ教育や、へき地・小規模校への実習を通して、へき地校の魅力や学級経営に興味を持ち、学びを深めております。たくさんの方々を支えられて日々勉学に励むことができていることへの感謝の気持ちを忘れず、将来地域に貢献していける教師になることを目指し、今後もより一層学びを深めていきたいと思っております。ご支援いただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。



◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育実践専攻 3年 壽原 あすか

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思います。授与していただいた奨学金は、控えている試験の参考書の購入や、ボランティア活動等に関わる費用として、大切に使用させていただきます。今後も、夢である教師になるために、大学での学びを大切に、より一層努力していきたいと思っております。ご支援いただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。

◆ 釧路校 教員養成課程 地域学校教育実践専攻 4年 高橋 想奈

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日々の努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく、光栄に思っております。私は防災教育や地理教育に関心があり、1年生からゼミでよりよい授業づくりについて先生方や仲間と共に議論し、追究してきました。これからも大学で学んだことを活かして「生徒全員が輝き、協働的に活躍できる授業づくり」に取り組んでまいります。ご支援いただいた皆様への感謝の気持ちを胸に、これからも更に専門性・実践力の高い中学校社会科の教員を目指していく所存です。



◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 2年 別所 柚名

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような形でこれまでの努力を評価していただけたことに驚くと同時に、大変嬉しく思っております。また、多くの方々の支えのおかげで、日々学びを深めることができていることを改めて感じております。今後も支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、より一層学びを深められるよう、勉学に励んでいきます。ご支援していただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。

◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 3年 森田 実咲

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で学業の成果を評価していただいたこと、大変嬉しく光栄に思います。

コロナ禍により大変な状況が続いていますが、多くの方々に支えられ、学校生活を送ることができているということを実感しました。今後も、支援していただいていることへの感謝を忘れず、勉学に励んでいきたいと思ひます。

ご支援くださった皆様に心より御礼申し上げます。



◆ 函館校 国際地域学科 地域協働専攻 4年 多田 悠華

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。また、ご支援を賜りました皆様、そして指導教員である外崎紅馬先生をはじめ、日ごろ支えてくださっているすべての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

本奨学金の授与は、昨年に引き続き2度目となります。このような形で学業の成果を評価していただけたこと、大変嬉しく思っております。

今後も学び続ける姿勢を忘れず、皆様からの温かいご支援に応えられるよう、精一杯努力して参ります。この度は誠にありがとうございました。

◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 2年 佐竹 美咲

この度は北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力の成果をこのような形で評価していただきましたこと、大変嬉しく光栄に思っております。

今後は授与していただいた奨学金を有効に活用し、より一層学業に励んでいく所存です。日々の勉学で得た知識・技能を地域社会に還元することを目標に精進してまいります。

最後に、ご支援いただいた方々に改めてお礼申し上げます。



◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 スポーツ文化専攻 3年 廣松 桜侑

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような形で積み重ねた努力を評価していただけたことを、大変嬉しく光栄に思います。

多くの方々に支えられて、日々勉学に励むことができていると感じております。自分を支えてくださっている方々への感謝を忘れず、一つ一つの学びを大切に、将来学校教育に貢献できるよう精進して参りたいと存じます。

皆様の温かいご支援に重ねてお礼申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

◆ 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻 4年 松村 健太

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

私は、学業と部活動のサッカーの両立を志し、本学での日々を過ごしてまいりました。そのため、このような形で学業の成果を評価していただけたことを、大変光栄に思います。

また、岩見沢校サッカー部の活動に対して、日頃より多大なご支援を頂いております。

本基金に携わる皆様のご期待に沿えるよう精進してまいるとともに、改めて心より御礼申し上げます。



◆ 学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修(旭川校) 2年 小林 由依

この度は奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

大学院での努力を認められたようで大変嬉しく光栄に思っております。夜遅くの講義等熱心にご指導して下さった先生方や、切磋琢磨し合った同期や頼もしい先輩との出会い、そして何より大学院への進学を快く認めてくれた両親へ感謝の気持ちを持ち続けていきたいと思えます。つぎは人から受けた学びや恩を子ども達へ返していけるよう教職の道で努力して参ります。

最後になりますが、皆様の温かいご支援に改めて御礼申し上げます。有難うございました。



◆ 高度教職実践専攻 高度教職実践専修(札幌校) 2年 森田 智樹

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような形で評価をいただきましたこと、大変嬉しく光栄に存じます。

教職大学院で不断に行う理論と実践の往還は、私一人では得ることのできない、私自身の教育観の研鑽に大きく寄与するものでした。今後は、授与いただいた奨学金を活用し、未来を拓く子どもの学びの支援に力を注ぐことができると存じます。

最後になりますが、ご支援をいただいたすべての方々重ねて御礼申し上げます。

◆ 高度教職実践専攻 高度教職実践専修(札幌校) 2年 齊藤 里帆

このたびは奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。日々の学業の成果をこのような形で評価していただき、身に余る光栄です。

学部生として北海道教育大学に入学して以来、国語教育分野の先生方をはじめ、多くの方に支えられて勉学に励んでまいりました。大学・大学院で得たご縁を大切に、今後も謙虚に学び続けていく所存です。

最後になりますが、皆様の温かいご支援に重ねてお礼申し上げます。このたびは誠にありがとうございました。



◆ 高度教職実践専攻 高度教職実践専修(旭川校) 2年 鈴木 亜衣

この度は北海道教育大学基金より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。奨学生に選んでいただき、大変嬉しく思うとともに、ご支援、ご教授いただいた全ての方々へ心より御礼申し上げます。

私は現在、教職大学院において、英語教育に関して学んでおり、実践論文の執筆に取り組んでいます。今後も奨学金授与者として恥じぬよう、一層勉学や研究に励む所存でございます。この度は誠にありがとうございました。

◆ 高度教職実践専攻 高度教職実践専修(旭川校) 2年 高松 諒

この度は、北海道教育大学基金より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。私の大学院での学びを、この度のような素敵な形で評価いただき、大変光栄です。この誌面をお借りして、日頃より私の学びを支えて下さっている皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

大学院生活も残すところ僅かとなりましたが、今後も精一杯研究活動や講師としての勤務に力を注ぎ、奨学金を授かった一員として相応しい努力を続ける所存です。いただいたご支援は、修了後の学校現場での活躍をもって御返し致します。

改めまして、この度は誠にありがとうございました。



（単位：人）

区 分		札幌校 札幌・岩見沢校	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和元年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和2年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和3年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和4年度	大学院生	2	3			—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	6	3	3	3	20
計		292	167	133	87	54	758



## 5

## 寄附者のご紹介

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対し感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいているの方々のご芳名とご寄附額をご紹介します。

■寄附者ご芳名 ※令和4年4月～令和5年3月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

## 10万円以上

AUTO×AUTO 様	共和煖房工業株式会社 様
医療法人社団石史山会 札幌スポーツクリニック 様	一般社団法人 北師同窓会 様
株式会社北海道アルバイト情報社 様	北海道教育大学函館校尚学会 様
北海道教育大学旭川校後援会 様	北海道教育大学鶴陵会 様
北海道教育大学釧路校後援会 様	北海道教育大学札幌校教育後援会 様
北海道教育大学青陵会 様	北海道教育大学函館校親交会 様
北海道教育大学附属札幌小学校教育後援会 様	北海道教育大学附属札幌中学校教育後援会 様
北海道教育大学六稜会 平成五年卒 伍の会 様	北海道税理士会釧路支部 様
株式会社moderate 様	※五十音順

## 10万円未満

岩見沢パン協議会 様	calm pizza 様
北海道大学COI-NEXT 様	焼き菓子工房グランマ・ヨシエ 様
	※五十音順

企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

クロスセンシング株式会社 様	空知リゾートシティ株式会社 様
ばぐらす屋 様	株式会社北海道新聞社 みらい教育推進室 様
惑星コーネリアス 様	※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上				
梅津和宏様	柿沼博彦様	菊地圭様	千葉康様	萩原義昭様
堀田誠様				

※五十音順

10万円未満				
青木優一様	赤間幸人様	編田二郎様	荒川隆志様	石川益様
一條昌子様	今畑恵美様	榎本哲士様	岡山武様	小川邦彦様
小川原周太様	沖口廣久様	柄澤興和様	菊地裕二様	北守昭文様
後藤泰宏様	小林佳之様	斎藤祥子様	佐々祐之様	佐々木慎一様
佐々木雅哉様	佐藤嘉師様	佐藤正範様	佐藤康幸様	志手典之様
島澤正弘様	諏方幸紀様	菅原立樹様	杉本泰範様	瀬川明廣様
関谷秀一様	千賀愛様	園田裕美様	玉井康之様	中島太郎様
中島寿宏様	中野大吾様	中道和巳様	中村秀夫様	中山雅雄様
西方弘志様	西崎正樹様	野村英子様	野村卓様	野村秀男様
野村満夫様	長谷川めぐみ様	秦豊治様	樋口英子様	福島耕平様
福田宜男様	本間さとみ様	増渕哲子様	松橋達美様	三島哲様
水上丈実様	水野政勝様	村木透様	目黒将也様	矢島徳子様
山木茂様	山口亞希様	山下克彦様	山田尚志様	柚木朋也様
渡辺正人様				

※五十音順

個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青柳史匡様	青山眞二様	淡路至尊様	栗野正紀様	安藤史彦様
石澤伸弘様	泉澤玄一郎様	伊藤皓嗣様	入江修策様	植木克美様
尾形嘉隆様	奥村広様	尾関俊浩様	小野寺基史様	海鋒達也様
笠原究様	片山ふゆき様	來正遊様	越田学様	小林芳博様
小綿勉様	齋藤暢一朗様	佐藤英義様	椎野高志様	杉本典充様
鈴木啓文様	曾我浩司様	高見太也様	田口哲様	田谷典久様
寺山秀人様	東間義孝様	戸田まり様	土橋祐美様	中垣隆之様
中田好子様	中塚英俊様	中村貢三様	並川寛司様	南部正人様
早勢裕明様	引地秀美様	福岡真理子様	二ツ山政治様	本庄十喜様
前田輪音様	松橋智子様	丸山隼人様	宮原順寛様	武曾由香様
村上博章様	村田恵子様	茂田貴範様	望月秀則様	八木利夫様
安田和司様	谷中博文様	山口邦彦様	山田玲子様	山根豊様
横道勤様	横山吉樹様			

※五十音順

### ■ 札幌校の学生が日本体育社会学会第1回大会「学部生ポスター発表」で最優秀賞を受賞しました

令和5年6月24日（土）、25日（日）に立教大学池袋キャンパス（東京都）で開催された日本体育社会学会第1回大会「学部生ポスター発表」の部で、芸術体育教育専攻保健体育教育分野3年生の滝花晋吾さん、信田愛美さん、藤原宏太さんのチームが最優秀賞を受賞しました。

当日は、「新たな部活動の在り方についての実証研究—札幌市立H中学校の事例に着目して—」と題して、新たなスタイルの学校部活動について発表を行い、全5編の中から選考されました。

受賞した3名の学生から、「札幌市内の取組が全国的に認められて、とても嬉しいです」との喜びの言葉が届きました。



### ■ 旭川校で「教育大生のためのフードパントリー」を開催しました

令和4年11月16日（水）、学生への食料支援事業として、「教育大生のためのフードパントリー」を開催しました。

この事業は、旭川市フードバンク様より食料品をご提供いただき、実施したものです。

会場となった中央棟2階パブリックホールには、多くの学生が来場し、無償で提供いただいたアルファ米や乾麺、飲料水などの食料品を受け取りました。支援を受けた学生たちは「本当にありがとうございます。」と笑顔を見せていました。



## ■ 釧路校で地域環境教育実践分野の学生が「うらほろスタイル」実地研修を行いました

十勝郡浦幌町では、学校と地域とが連携・協働し、子どもたちに地域に対する愛着や誇りを育てていくことで持続可能な地域の実現を目指す小中一貫ふるさとキャリア教育の取り組み「うらほろスタイル」に取り組んでいます。「子どもを軸」に「学校を舞台」に持続可能な地域の実現を目指す同計画は、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の先進事例として全国的な注目を集めています。

「うらほろスタイル」の一環として、浦幌町では、小学校5年生が町内農林漁業家さんのお宅に宿泊しながら農業体験・漁業体験・林業体験等を行う1泊2日の民泊体験に取り組んでいます。小学生の地元農林漁業家宅への民泊体験は、全国的にも大変めずらしい取り組みです。

地域環境教育実践分野では、さまざまな形で「うらほろスタイル」に参画させていただきながら、これから「地域に根差した教師」になろうとする私たちには一体どのような資質や能力が必要とされるのか、実地で考えています。その一環として、2011年から2020年までの9年にわたり、浦幌町の小学校5年生が取り組む民泊体験をそのまま体験させていただき浦幌民泊体験実習に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、2021年からは実施が困難となってしまいました。

「うらほろスタイル」実地研修はその代替として実施されたものです。6月3～4日（土・日）、11名の学生が、子どもたちの民泊体験を受け入れてきた農家さんを訪れ作業体験をさせていただいたり、同世代の若者たちとの交流を楽しんだり、浦幌町の「人」や「つながり」の魅力を感じました。



## ■ 函館校でまなびプロジェクトを実施

令和5年7月29日（土）、函館校において「まなびプロジェクト」を実施しました。

まなびプロジェクトでは、小学生に1日大学生体験をしてもらうため、「必修授業」と「選択授業」を用意し、どちらも受講した小学生に修了証書をお渡ししました。

必修授業では蛇穴学長（当時）及び後藤（泰）理事のほか、函館校教員による講義が行われ、選択授業では、学生サークルや近隣の自治体、企業、岩見沢校などがそれぞれ工夫を凝らした授業を実施しました。

さらに、地元の福祉団体や学校による販売コーナーも設け、どの会場も大変な賑わいを見せておりました。

当日は気温が30℃に迫るとても暑い日でしたが、小学生やそのご家族、関係者など約400名の方々にご来場いただきました。

子どもたちは、午前中に必修授業を受け、午後は9つある選択授業から興味のあるものを自由に選び、大学生体験を楽しんでいました。

参加した小学生からは、「たのしかった。」「いろいろなことが学べてすごく勉強になった。」「また来たいです。」「この大学生になりたいです。」など、たくさんの感想をいただきました。

函館校では、本学の教育マインドを道南地域の子どもたちへ提供するため、今後も地域に密着した活動を続けていきたいと思っております。



蛇穴学長（当時）による授業



岩見沢校とのコラボ「アダプテッド・スポーツ」

## ■ 函館西警察署と特殊詐欺の被害防止対策に関する協定を締結

令和5年6月28日(水)、函館西警察署において、「北海道教育大学函館校と函館方面函館西警察署との地域に密着した特殊詐欺の被害防止対策に関する協定書」の締結式が行われました。

本協定は、本学と函館西警察署が、地域に密着した効果的な特殊詐欺防止対策の推進について相互に連携及び協力することにより、地域住民の安全・安心な暮らしの実現に寄与することを目的としています。

締結式には、本学の特色ある科目「地域プロジェクト」の一環として、函館西警察署との連携による「防詐欺少年団」を実施した本学学生も参加し、締結式の最後にはキャンパス長及び函館西警察署長と共に記念撮影を行いました。

この協定締結により、本学と函館西警察署は、地域住民の安全・安心な暮らしを守るため、今後も特殊詐欺防止対策の推進について連携・協力していくこととしています。



## ■ 岩見沢校の在学生及び修了生が「第75回記念二紀展」で各賞を受賞しました



一般社団法人二紀会が主催する「第75回記念二紀展」絵画の部において、令和4年10月に受賞者が発表され、本学大学院美術教育専修修了生の山崎麻乃さんが、一般の部から1名に授与される最高賞である「二紀賞」を受賞しました。

山崎さんからは、「毎日描き続けた成果を認めていただけて、大変嬉しく思います。今回の授賞を一つの区切りにし、気を引き締め、より良い作品づくりに励みたいです。」との喜びのコメントが届きました。

また、在学生(令和4年10月時点)からは、本校美術文化専攻油彩画研究室の



安部晶枝さん、館岡美波さん、温井彩加さんが奨励賞を受賞したほか、安藤蓮華さん、伊藤佑夏さん、枝元善藏さん、坪井明花さん、志岐瑞生さん、保井あかりさんの6名と、卒業生・修了生11名が入選しました。

▲左から安部さん、館岡さん、温井さん

## ■ 岩見沢校の学生が第1回プリマヴェーラ声楽コンクールで最高位を受賞しました



令和5年5月5日(金)に小金井宮地楽器ホール(東京都)で開催された、第1回プリマヴェーラ声楽コンクール【カント・クラッシコ】ヴェンティ部門(声楽専攻部門・20歳以下)本選において、音楽文化専攻声楽コース3年生の長倉駿さんが、最高位(1位なしの2位)を受賞しました。

※詳細はプリマヴェーラ声楽コンクールホームページをご確認ください。

長倉さんからは、「岩見沢校に入学してから、音楽に限らず様々な分野においてたくさんの貴重な体験をさせていただきました。今回のコンクールでこのような栄誉ある賞をいただき、今までの経験がどれだけ素晴らしいものであるかを再認識することが出来ました。これを機に、残り少ない大学生活、そしてこれからの音楽家人生をより豊かなものにできるよう善処していく所存です!」との喜びのコメントが届きました。

長倉さんは令和5年度の岩見沢校入学式で国歌独唱者にも選ばれており、今後の活躍が期待されます。

## ■ キャンパス活性化リノベーション事業について

本学では、新時代の幕開けとなった令和元年に、本学が70周年を迎えることを契機に、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設しました。

令和4年度は【札幌校】ダイバーシティの実現に向けた「だれでもトイレ」整備事業で寄附目標額を達成いたしました。

キャンパス活性化リノベーション事業の詳細は、以下からご覧いただけます。

本学ホームページ <https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/effort/renovation.html>

### 《札幌校》

#### ダイバーシティの実現に向けた「だれでもトイレ」整備事業

全ての人々に平等な空間を

本事業に対する寄附金

寄附総額 2,648,000円

（寄附目標額225万円／達成率118%）

### 【札幌校】ダイバーシティの実現に向けた「だれでもトイレ」整備事業

事業の概要 区別のない空間づくりから心のバリアフリーを啓発し、ダイバーシティの実現へ

経年により老朽化した男女トイレを、性別を問わず誰もが不自由なく利用できる「だれでもトイレ」に再生することで、学生により良い修学環境を提供するほか、札幌校全体として多様性に対する意識を高め、利用する全ての人々が安心して過ごせる優しいキャンパスを目指し整備しました。



#### 学生の声

本事業に、たくさんのご関心と応援をお寄せいただきありがとうございました。  
札幌校では、これまでダイバーシティに配慮したキャンパスの実現を目指し、キャンパス内のバリアフリー化を推進してきました。「だれでもトイレ」の完成により、本学に來校する方々が安心して過ごせることができるようになり、また、多様性に対する意識醸成の機運ともなりました。  
今後、このような環境で育った札幌校の学生が、すべての子供たちを思いやることができる教員になることを心より願っております。  
引き続き、皆様のご支援並びにご声援を何卒よろしくお願い申し上げます。

札幌校キャンパス長 田口 哲

札幌校は、大部分のトイレが男女別となっており、ジェンダーレストイレが少なく、休み時間に利用したくてもできないときがありました。この度「だれでもトイレ」が完成し、校内で利用するトイレの選択肢が増え、困りごとが減りました。また、着替えの場所もなく困っていたため、そのような場所がで大きく変われしく思います。  
今後も多様性に配慮した施設・空間が整備されていくことを望んでいます。

SOGIサークルフラット 一同

#### 整備の記録



オストメイトに配慮した汚物流し、フルアウト水栓、化粧鏡などを設置

車いすの学生が着替えをしやすいように多目的シートを整備  
乳幼児連れに配慮しベビーチェアを設置

着替えや身だしなみに配慮してフィッティングボードを全室に整備

当事業に対する寄附金  
～皆様からの【共感】～

寄附総額 2,648千円  
(寄附目標額 2,250千円/達成率118%)

設置から35年以上が経過したトイレは老朽化し、和便器で使いづらく、雰囲気も暗いイメージでした。  
トイレのあり方を見直し、きれいで明るい「だれでもトイレ」に改修し、外部・内部障がいのある方、乳幼児連れの方、SOGIの多様性に配慮したトイレとなりました。

本事業は、本学「キャンパス活性化リノベーション事業」の一環として行ったものです。  
たくさんの「共感」をお寄せいただき事業を達成することができましたことに感謝申し上げます。

## 寄附者様特典

### ■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、未永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

### ■贈呈品について

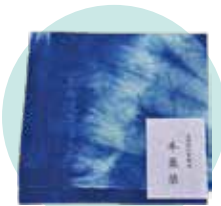
一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。



ホタテ箸



コースター



藍染ハンカチ



木皿



石版レプリカ

#### ・ホタテ箸について

ホタテ箸は、宮城県塩竈市にある企業が研究・開発しています。年々廃棄量が増加するホタテの貝殻と、東日本大震災の際に木や竹製の割箸が「カビを発生する」という観点から備蓄されておらず、箸を使って温かい食事をとることができなかったという2つの問題がきっかけとして開発されました。また、北海道教育大学附属特別支援学校の生徒が作業学習の中で、箸袋の作成や梱包作業を行いました。

#### ・コースターについて

北海道教育大学岩見沢校の美術文化専攻でイラストレーションを学んでいる学生がデザインしました。このコースターは、北海道教育大学の様々なことに挑戦する学生達の姿と楽しいキャンパスライフをイメージして表現しました。

#### ・藍染ハンカチについて

国際交流関係来客時の贈呈品としても用いており既製品ではなく、自然の材料のみ使用した「天然灰汁発酵建て」の藍染ハンカチです。

#### ・木皿について

北海道教育大学岩見沢校の美術文化専攻で木材工芸を学んでいる学生が制作した木の器です。塗装は無害なオイル仕上げにより、木肌の暖かみを直に感じて頂ける木皿です。

#### ・石版レプリカについて

石版レプリカは、北海道教育大学札幌校に展示されている、故・伊藤隆一名誉教授の漆工芸作品を元に制作された作品です。

### ■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）にご招待いたします。

### ■ クレジットカード決済によるご寄附について ■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。  
詳細はWebサイトをご覧ください。(スマートフォンからのお申込みもできます)



北海道教育大学基金 検索

### ■ 北教大古本募金について ■

皆様を読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金 検索

## 税制上の優遇措置（税額控除制度について）

### ■ 対象：修学支援事業

租税特別措置法の一部改正により、国立大学等が実施する修学支援事業に充てられる個人からの寄附にかかる所得税の税額控除制度が導入されることとなりました。

北海道教育大学基金の修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

$\left( \begin{array}{ccc} \text{所得金額} & - & \text{諸控除} \\ \text{(年収)} & & \text{(扶養控除等)} \end{array} \right) \times$	(税率)	=	所得税額
	5%		(寄附金-2,000円) × 40%を控除
	10%		
	20%		
	23%		
	33%		寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税
	40%		から控除されます。その金額の所得税が還付されます。
45%	※所得税額の25%が限度です。		

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》

○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%=3,200円

○所得控除の例：(10,000円-2,000円=8,000円) × (税率10%(平均的な世帯の諸控除額を想定)) = 800円

国立大学協会資料から一部転用

### 【お問い合わせ先】

北海道教育大学基金事務室

〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学総務企画部総務課内

TEL：011-778-0914,0206 FAX：011-778-0631

E-mail：koho@j.hokkyodai.ac.jp

https://www.hokkyodai.ac.jp/intro/fund/

2024.1発行